

証言：日中戦争下南京の日本軍慰安所

——松下富貴楼・土地所有者の記憶 解説及び注記——

樋口 浩造・西井麻里奈

解説及び注記：元日本軍慰安所を訪ねて

はじめに

2012年12月28日、中国・南京市に現存する元日本軍慰安所¹⁾の現地調査を行った。調査対象は、商店と住宅が混在する大通り、南京市委常委街沿い・福安里に現存する元・松下富貴楼慰安所（以下、松下富貴楼慰安所）である。1937年7月7日、北京市郊外で日本軍と中国軍が衝突した盧溝橋事件を皮切りに日本と中国は全面戦争に突入し、5か月後の1937年12月、日本軍は中国の当時の首都・南京を攻撃・占領した。南京陥落の際には、日本軍によって大規模な住民虐殺や、幼児から老婆まで多数の現地女性に対する強姦が行われた。侵略地において日本軍は強姦事件を多数引き起こしてきたが、特に日中全面戦争以後このような事態は顕著になる。こうした事態への対応を名目として、日本軍の占領下に置かれた南京では軍の主導で慰安所が多数設置された²⁾。

今回の調査対象である松下富貴楼慰安所は、占領下南京において開設された元日本軍慰安所の一つであり、特に将校を対象としていた慰安所である。松下

1) あらかじめ「慰安」という用語について、一言述べておきたい。「慰安婦」「慰安所」という呼び方自体が、すでに事実を隠蔽しようとする姑息な思惑の見え隠れする呼称である。元「慰安婦」の証言者が、自らを「性奴隷」と表現し、英語でも [SEX SLAVE] と紹介される事実を、「慰安」婦と呼んできたことには問題があると考えている。しかし、注での指摘にとどめ、本文では通例に従ってカッコをつけず慰安婦と表記する。

2) 松岡環らによって行われた南京戦に参戦した元日本軍兵士に対する膨大な聞き取り調査の記録がある。それによると、慰安所の存在を知っていても、金がかからない手近な現地女性への強姦を行う兵士も多く存在していたことが分かる（松岡環編『南京戦 閉ざされた記憶を尋ねて 元兵士102人の証言』、社会評論社、2002）。

富貴楼慰安所は現在アパートとして利用されている。松下富貴楼慰安所の大部分は戦後の都市計画や道路建設の過程で既に解体されており、現存しているのはかつての建物の一部である（図1）。調査一行は、この土地と建物の権利者である李さん³⁾から、占領下南京での経験を中軸としながら松下富貴楼慰安所についてお話を伺った。本稿で紹介するのは、2012年12月に現地で行った聞き取り調査の記録であるが、内容には具体的な地名や街路等、建物の構造に関わる証言が多い。そのため、李さんの証言について、当時の南京市内の地理的配置を含めて解説することが理解を深める重要な補助線となる。このような意図から、以下に関係する街路や建物を記入した南京市の簡単な略地図（配置図）を提示した上で、本解説を進めていく。

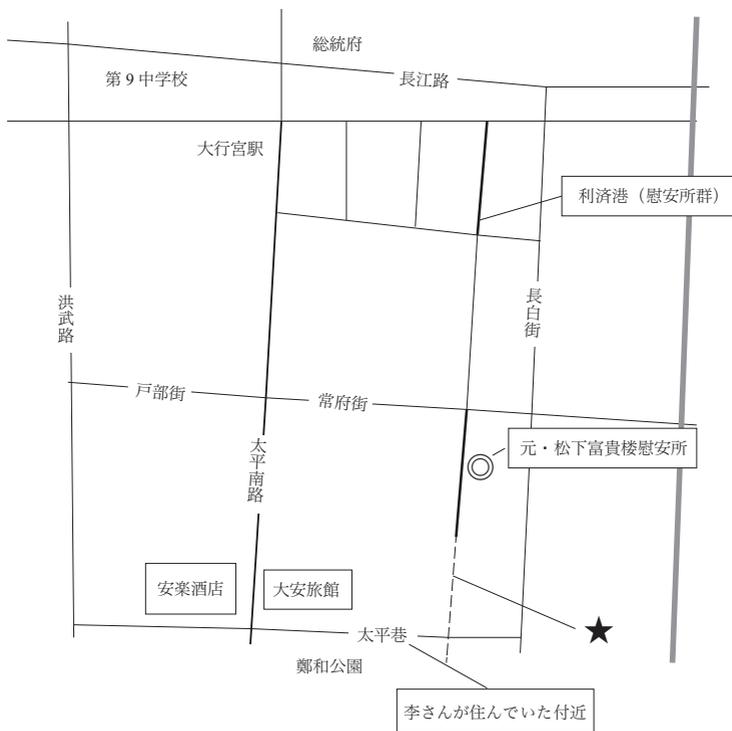


図1 松下富貴楼慰安所周辺の南京市街地図

3) 本稿では李さんの息子さんの希望により、フルネームの記載は差し控える。

この地図は現在の地名・街路名・目印となる建物を記した地図に、李さんの証言中に登場する建物や通りを書き込んだものである。四角で囲ったものは証言中で登場する建物や場所である。太平巷から福安里に通じる道（地図中★印）はかつての通り道であったが、戦後の都市計画のなかで縮小され、現在は長さが約半分になっている。無くなった街路にあたる部分は点線で表示してある。現在は太線部分までで行き止まりになっているが、かつては太平巷から松下富貴楼前を通り利済巷まで通じていた通りであり、松下富貴楼はこの通りに正面して建っていた。また証言には、占領中多くの日本人が行き交った通りとして「太平路」と呼ばれる街路が登場するが、それはこの地図中の現在の街路名である「太平南路」のことである。地図中には現在の呼称を記した。

通学路の記憶—街路をたどる—

李さんは現在、松下富貴楼慰安所の建物をアパートとして再利用して住んでいる。建物を建設したとき、土地は李さんの父のものであったが、現在は李さんが権利を引き継いでいる。李さんは1927年、南京市・太平巷に生まれた。太平巷は南京市の主要街路である太平南路⁴⁾を東に入った小さな街区である。1927年から1937年まで、すなわち10歳になるまで、李さんは太平巷に住んでいた。李さんの父は商売を成功させて南京市太平巷の太平南路沿いに「旅館」を建てた。これが証言中に登場する「大安旅館」である。

のちに日本軍に接収され松下富貴楼慰安所となる建物は、太平巷から少し離れた場所にある。これは李さんの父が「大安旅館」を建てた際に残った材料をもとに作ったものであり、「旅館」ではなく賃貸物件であった。また、常府街と垂直に交わり、松下富貴楼慰安所跡が現存する狭い街路は、現在は太平巷まで通じておらず林立する住宅によって行き止まりになっているが、当時は太平巷と松下富貴楼慰安所前の街路は道路によってつながっていた。松下富貴楼慰安所付近では、戦後の都市計画によって、今でこそ常府街が交通量の多い広い街路となっているが、かつての主要な交通路は太平巷と松下富貴楼慰安所をつ

4) 証言中で「太平路」と呼ばれているのはこの「太平南路」のことである。以下では現在の地名に即して「太平南路」と表記する。

なぐ南北の道であった。松下富貴楼慰安所前の道を北上すると南京市の主要街路の一つである中山東路に抜ける。その際には利済巷⁵⁾という小街路を通過するのであるが、この利済巷付近は占領下の南京において多くの日本人が行き交い、また後述するように多数の日本軍慰安所が設置された場所であった。李さんは当時、中山東路よりさらに北にある長江路沿いの第9中学校に通っていた。つまり太平巷の自宅から長江路に抜けるまでの通学途中、松下富貴楼慰安所前と、占領下南京において、日本人街の様相を呈した太平南路以東、長白街にいたるまでの街区、日本人の商店や慰安所を多数抱える日本人街の中心地区付近を通り抜けていたことになる。

今回の聞き取り調査は、12歳から18歳までの間を占領下の南京で生きた李さんの目を通した、日本軍慰安所に関する記憶の断片的記録である。インタビューのなかで、李さんの目に慰安婦の姿、行動、様子がはっきりと像を結んだ経験はわずかにしか語られない。しかしインタビューの中には、当時日本軍占領下にあった南京で暮らした人の目線や心理から捉えた日本軍慰安所の姿が織り込まれている。このことは、本記録を読み解く一つの重要な視点となるだろう。

松下富貴楼慰安所

日中開戦後、李さん一家は南京が攻略される前に親族を頼って湖南省へ避難しており、1937年12月からの虐殺を免れた。一家は1939年に再び南京へ戻ってきたが、そのときにはかつて李さんの父が建てた建物は日本軍によって占拠されていた。川田文子によれば、慰安所にする建物を用意する際に軍が接収したのはホテル、食堂、商店、大きな屋敷などの個人所有家屋や、学校、教会、公民館といった公共の建物などであった⁶⁾。また吉見義明は、慰安所用の建物

5) 現地研究者でつくる中国民間・アジア平和文化交流の会の報告によれば、利済巷は現在保存できた慰安所のなかで「アジア最大の慰安婦遺跡」であり、慰安所として使われた建物の面積は4800m²、関連する周囲の店舗を含めて8000m²にもなるとされており、同慰安所跡を「歴史陳列館」として一般開放する計画が進められている。(中国民間・アジア平和文化交流の会 HP <http://jp.youhaotravel.com/> 最終閲覧2013年11月8日)

6) 吉見義明、林博史『共同研究 日本軍慰安婦』(大月書店、1995)川田文子担当箇所第六章(「軍慰安所における生活実態」)、p. 151

の接収にあたって部屋数の多さは重要な条件であり、また将兵が通うのに便のよい立地も求められたことを指摘している⁷⁾。李さんの父が旅館建設の残材で作った建物もまたこの条件を満たしている。建物は接収後一帯を「松下富貴楼」とされ、正面に大きな看板がつけられていた。また現在李さんが住んでいる部屋には鏡台やテーブルがあるが、それらはみな松下富貴楼慰安所で使用するために「大安旅館」から運びだされ、慰安婦たちが使用していた家具である。日本の敗戦後、南京から日本軍が撤退し、慰安婦たちが「いなくなった」あと、李さんらはこの建物を清掃・整理し、賃貸アパートとして利用するための改築を行い、現在に至っている。

南京城内の慰安所には、朝鮮人、中国人、日本人の慰安婦たちがいたとされる。なかには日本軍の命令により中国人の「漢奸」が設置した慰安所もあったといい、そこで働かされた慰安婦は殆どが中国人女性だった。吉見は設置された日本軍慰安所には3つのタイプがあるとしている。①軍直営の慰安所、②軍が監督統制する軍人・軍属専用の慰安所、③民間の売春宿を兵用に指定する「軍利用」、軍が特別の便宜を求める慰安所、である⁸⁾。吉見はこの分類はあくまで典型的なタイプの類別であり、実際には軍直営慰安所から民間の売春宿に近いものまで、多様な形態があったことも指摘している。尹明淑はこの吉見の3類別の定義を補足し、②のタイプには軍の統制監督のもと、民間人経営者または管理者を置く場合に加え、軍が民間人経営の既存の売春宿を軍隊慰安所として指定し、軍人・軍属の専用にする方法もあったとする。また③のタイプについては、民間人の利用も可能であったが、「軍の統制監督を受ける代わりに業者は便宜を図られて両者の利害が合致した場合」に相当するものとし、「軍人・軍属利用が多ければ多いほど軍隊慰安所としての性格が強くなる」とした⁹⁾。松下富貴楼慰安所は既存の建築物を接収し将校用の慰安所にしたものである。李さんの証言によれば、松下富貴楼の管理者であった松下という人物

7) 吉見義明『従軍慰安婦』(岩波書店、1995)

8) 前掲『共同研究 日本軍慰安婦』、第一章、p. 6

9) 尹明淑「中国人軍隊慰安婦問題に関する研究ノート—上海と南京での研究交流を終えて批判的立場から考える」(日本の戦争責任研究資料センター編『季刊戦争責任研究』第27号(2000)(p. 27)

は、妻と子とともにこの建物に住んでおり、松下は軍服ではなく和服を着ていたという。松下一家の家族滞在というスタイルからすると、松下は恐らく軍人ではなく一般人であると思われ、吉見の分類を援用するならば②のタイプの慰安所であったと考えられる。

松下富貴楼慰安所の建物構造について

李さんの証言によれば、松下ら管理者が住む建物と慰安婦が住まわされた建物は連絡通路で通じていた。ただし、建物で完全に住み分けがなされていたわけではないようで、李さんの証言によれば、松下一家が住んでいた建物には「客室」があり、また一階部分と別棟に慰安婦の住む部屋があった。こうした部屋の区別に加え、先に述べたように建物が慰安所として接収された際、「大安旅館」から調度品も接収されて部屋に設置されている。つまり松下富貴楼慰安所では、調度品を備え、将校を対象とするに相応しい質の空間提供を考えていたために、慰安婦たちは将校の相手をさせられるとき、自らの部屋ではなく「客室」に移動させられていたと考えられる¹⁰⁾。一方李さんは、松下らが住む建物には2階に松下の部屋、客間、医務室、厨房があったと証言している。この「客間」は「慰安婦」の「仕事」のために使われたとは考えにくく、二階部分は基本的に松下一家、もしくは松下の個人空間であったと考えられる。

占領と慰安所——利濟巷を通じて見る南京市民の心持ち——

また今回の調査では松下富貴楼慰安所以外に、先に既に言及をした大規模な慰安所建物群が現存する利濟巷¹¹⁾を訪れた。利濟巷一帯は民国期に南京で最も

10) 吉見は慰安婦の部屋の内装について、占領地と前線で全く異なるものであったことを指摘しており、前線に近い慰安所ほど慰安婦の日用品が置かれた生活空間がそのまま強姦の現場となっていた（註7前掲）。松下富貴楼のように慰安所に調度品を備えるのは位の高い者のための慰安所であったが故の特徴として考えられると同時に、南京が占領地であったからこそ可能であった、兵士のための娯楽空間としての慰安所に施された演出・装飾とも言える。

11) 利濟巷の慰安所跡については蘇智良、西野瑠美子らによる先行研究がある。（蘇智良「南京の日本軍慰安所を尋ねて—利濟巷慰安所の調査を例に」（『南京事件70周年 国際シンポジウムの記録』（日本評論社、2009）、西野瑠美子『戦場の「慰安婦」—拉孟全滅戦を生きのびた朴永心の軌跡』（明石書店、2003））

栄えていた地区の一つであったとされる¹²⁾。1937年の日本軍による南京占領以後は、旧日本軍慰安所が多数集結していた。大通りである中山東路でタクシーを降り、そこから中の通りを100メートルほど歩いていくと、高い塀に囲まれ今にも崩れそうな廃墟となったかつての建物が複数現存していた。これらの建物のすべてが慰安所であったわけではなく、中には日本軍の指導官が住んでいた建物もあり¹³⁾、また周辺には店舗も存在した。塀の内側に入るための唯一の扉は締め切られており、わずかな隙間から中を覗くと、建物の周りは塵芥集積所となっていた。裏側の生鮮市場を通り抜けて建物に接近したが、やはりフェンスに囲まれており近づくことができない。フェンス越しに見える建物のひとつは、崩れた瓦礫に一階部分がほとんど埋もれるようにして建っていた。塀から少し離れて全体像を見てみると、塀の内側にある複数の建物の様式や規模は、階数やバルコニーの有無、屋根の形等がそれぞれ異なるものであった。

李さん一家は1937年12月の南京大虐殺を免れ、1939年に南京市に戻ってきた。その時既に、李さんの父が建てた賃貸住宅は日本軍に接収され、「松下富貴楼」という日本軍の慰安所にされていたことはすでに見たとおりである。李さんは自宅のある太平巷から長江路沿いにある第9中学校に通っていた。太平巷と中山東路、長江路を一直線につなぐ大きな道路が当時の「太平路」（現在の太平南路）であるが、ここは占領下の南京において日本人の往来が多かった場所であり、李さんはこの近辺で着物を着た日本人をよく見かけたと言っている。また、この大通りを内側に入ると利濟巷や科巷、水巷、白菜園といった通りがあり、これら一帯は日本軍慰安所が集中していた地区の一つであった。利濟巷の大規模な慰安所群の中のひとつが東雲慰安所である。さらに隣接する街区である科巷・水巷には「洋屋慰安所」、白菜園には「青南楼慰安所」、中山東路沿いには「浪花慰安所」が存在していたことが、先行する調査から判明している¹⁴⁾。川田文子は南京市の慰安所調査で利濟巷の付近で米店を営んでいた女性

12) 蘇智良、同前 (p. 116)

13) 川田文子「南京レイプと南京の慰安所」（日本の戦争責任資料センター編『季刊戦争責任研究』第27号、2000）(p. 15)

14) 西野瑠美子『戦場の「慰安婦」－拉孟全滅戦を生きのびた朴永心の軌跡』（明石書店、2003）

から聞き取りを行っている。女性は慰安所のそばを通った中国人が、ふんどし姿の日本人に殴られるのを見たことがあり、また酒に酔った日本兵が剣を振り回し、中国人が殺されたので保安隊を呼んだ経験があることを証言している。慰安所に近寄ることができなかつたため中の様子は分からなかつたし、慰安婦の姿も見たことはなかつたという¹⁵⁾。中国人が慰安所に近寄ることは厳しく禁じられており、近寄ることは時に死に至る暴力の契機となった。毎日の通学途中に慰安所の林立する空間を往来していながら、李さんの証言のなかで慰安婦の具体的な姿が殆ど語られないのは、慰安婦たちに対する身体の拘束という条件に加え、占領空間の慰安所を取り巻く暴力の危機に身構える南京の人々の心持が反映されていると考えられる。それは李さんが慰安所前の広い道を通るときに、道のどちら側を通るのかという日々の行動の選択にもあらわれていると言えよう。

おわりに

最後に、今回の調査についての経緯等を記しておく。本調査は愛知県立大学日本文化学部歴史文化学科教授樋口浩造を中心に、櫻澤誠（立命館大学非常勤講師）、鎌倉祥太郎（大阪大学大学院博士後期課程所属・日本学術振興会特別研究員）、西井麻里奈（大阪大学大学院博士前期課程所属）、樋口ゼミの学部ゼミ生2名が同行し、李さんへの質問は主に樋口と西井が行った。中国語の通訳は、南京航空航天大学の羅翠翠教授のご紹介により、日本語の通訳・翻訳を専門とする羅ゼミの院生の方々にご協力をいただいた。通訳を李さん、張さんに、利済巷への案内を李君にお手伝いいただいた。また、聞き取り調査後のテープ起こし、及び翻訳の労をとってくれたのは、現奈良文化財研究所アソシエイトフェローの方国花さんである。

樋口ゼミでは今回2012年の調査に先立ち、2008年、2010年の2回にわたり今回の調査地である松下富貴楼慰安所を訪れ、当時を知る3人の証言者から話をうかがってきた。過去の調査では、日本軍慰安所を街のなかでどう目撃した

15) 前掲注13)、p. 16

のか、あるいは慰安所が存在する占領下の南京をどう体験したのか、3人がそれぞれの視点から体験を証言して下さった。この3人は、1人の女性と2人の男性であり、うち1人が今回の協力者である李さんである。今回の調査は、彼/彼女らの体験を記録に残すことを目的としたものであったが、2008年、2010年の訪問で証言をしていただいた3人のうち、女性は他都市に転居しており不在であった。そのため今回の訪問時には当時を知る2人の男性が居住していたが、うち1人は老齢と病のため面会すら叶わなかった。この男性は当時、松下富貴楼慰安所の横を通ったときに、慰安所に監禁されている女性が柵越しに行商人からものを買うため柵から手を差し出している姿を目撃しており、2008年、2010年の訪問時には調査一行にその体験を語って下さった。この3人の語りを全て書きとめることが本調査の目的であったが、時の経過と人々の流動のなかで、すでに占領下の南京市の様子、そのなかの元日本軍慰安所に様々な形で関わった人々の経験・記憶をたどり得る臨界点にあることを今回の調査で痛感することとなった。

折からの尖閣諸島領有問題で波立つ日中関係のなか、まさに虐殺が繰り返された75年前の冬が想起される南京の地を訪れることには憂懼の念を禁じえず、それを絶えず胸にとどめての滞在・調査となった。しかし、当事者との直接の連絡手段の無いまま、かつて2度訪れた記憶だけを頼りに現場へこぎつけ当事者に再会することができた。本資料及び本稿は、ひとえに現地の人々の温かい助力の果実であることをここに刻んでおきたい。調査は12月の寒い南京市で行なった。また利濟巷を訪れた日は、寒さに加えて雨がとても冷たい一日であった。悪条件と多忙な生活の中、私たちの依頼に真摯に応答して下さった羅先生、調査に同行して下さった学生の友人たちに心から感謝する。そして、私たちの唐突な再訪にも拘わらず、自宅に快く招き入れ、長時間インタビューに応じて下さった李さん親子に対し、ここに改めて感謝と敬意を記し、解説を閉じたい。

証言：占領下南京の日本軍慰安所——松下富貴楼土地所有者の記憶

年月日：2012年12月28日

場所：中国南京市白下区福安里2号

証言者：李さん親子

聞き取り：樋口浩造・西井麻里奈・櫻澤誠・鎌倉祥太郎・青木なつみ・工藤大貴

通訳：南京航空航天大学羅翠翠教授の院生（李さん、張さん）

翻訳：方国花（当時愛知県立大学文字文化財研究所客員共同研究員、現奈良文化財研究所アソシエイトフェロー）

*多くの方にご協力いただいたが、以下の文章化された記録の文責は、すべて樋口浩造・西井麻里奈にある。

証言

質問者：お爺さん、おいくつですか？

（爷爷，您高寿，多大？）

李さん：今は85、あと数日で86歳です¹⁾。

（今年是85，再过几天就86岁）

質問者：お爺さん、お名前は？

（爷爷，您叫什么？）

李さん：李です。おかけください。

（李，你们坐。）

質問者：兄弟はいますか？ 何人兄弟？

（有没有兄弟？弟兄几个？）

息子：私から話します。兄弟は四人だけど今二人残っている。

（弟兄有四个，现在还剩两个。我来说，我说）

質問者：あなたはこの方とどういう関係ですか？

（您是这位的什么？）

息子：彼の息子です。

（我是他息子）

1) 証言の聞き取りは、年末12月28日に行われたものであり、もうすぐ新年を迎えるため、中国の風習にならって、一歳増えると述べたと思われる。

質問者：えーと、お爺さんはいつ86歳の誕生日を迎えるのですか？

（哦，爷爷，您什么时候过86大寿呀）

李さん：今年の10月8日。

（今年呀，10月8号）

質問者：旧暦ですか？

（阴历的吗？）

息子：旧暦は9月13日、我々は旧暦の誕生日を祝う。

（阴历是9月13日，我们过的是阴历）

李さん：旧暦9月13日

（农历9月13）

質問者：生れはいつですか？

（您什么时候出生的？）

李さん：1927年生れ、旧暦9月13日。

（1927年生，阴历9月13号）

質問者：何処で生まれたのですか？

（您在什么地方出生的？）

息子：ここ南京で生まれた。

（就在南京）

質問者：この家で生まれたのですか？

（就在这个房子吗？）

息子：いいえ、この家は1930年に建てたもので、父は27年に生まれました。

（不是，这个是30年建的，他是27年出生的）

質問者：では、何処で生まれたのですか？

（那，是在哪儿出生的？）

息子：太平巷、太平公園²⁾のある所、太平巷です。

（就是在太平巷，太平公园那里，就是太平巷）

質問者：昔は太平巷と呼びましたか？

2) 詳細不明。後出の鄭和公園のことか。

（以前叫太平巷？）

息子：今も太平巷と呼んでいる。

（现在还叫太平巷）

質問者：南京市内ですか？

（是在南京市内？）

息子：ここから大体1キロメートルくらい離れている。ここから近いよ。

（离这里也就是1公里。离这儿很近）

李さん：以前は太平巷に住んでいた。今は鄭和公園の向い側。そこに住んでいた。

（过去我们就住在太平巷，现在就是在郑和公园对面。我们住在那个地方）

息子：地図ある？ その位置を教えるから。

（有地图吗？我给你标在那个位置）

質問者：では、お爺さんはそこに何歳まで住んでいましたか？

（那爷爷，在那边住到多大？）

息子：父は27年生まれで、37年まで。戦争が起きて、二年間南京を離れたけど、39年にまた南京に戻ってきた。

（他就是27年出生，一直到37年。不是战争了吗，离开了南京两年，39年又回南京来了）

質問者：二年間南京を離れたのですね。

（离开南京两年？）

息子：戦争が起きたでしょう。そのため南京が攻略される前に、一家は、私のお爺さん、つまり父のお父さんは家族皆を連れて避難した。

（那不是战争了吗？就是在南京城沦陷以前，一家人，就是我的李さん，就是我爸爸的父亲，带着一家人老小就逃难了）

質問者：何処に逃げましたか？

（逃到哪儿了？）

息子：一番遠い所は湖南省、湖南の園陵、鳳凰³⁾に近い所にある。

3) 湖南省東端の街

(最远到湖南，湖南那个园陵，靠现在凤凰那个)

質問者：つまり27年から37年にかけて基本的にはずっと南京にいて、戦争前に逃げたということですね。

(就是27年到37年基本都在南京、战争爆发前逃了)

息子：父が避難したときはまだ10歳でした。

(我的老爷子逃难的时候10岁)

質問者：その後、戦争が終わってまた戻ってきたのですか？

(后来战争过后他又回来了?)

息子：39年に戻ってきました。

(39年回来的)

質問者：30年にこの家が建った時には誰のものでしたか？

(这个房子30年建成的时候是谁的房子?)

息子：祖父が建てたものです。

(我爷爷盖的)

李さん：この家は1933年に……

(这个房子呀，是1933……)

息子：いや、30年です、これは私から話します。避難してから戻ってきた時、祖父は家族皆を連れて帰ってきました。この家は、以前は前に二階建ての建物があったけれど、今はもう撤去しました。帰ってきたときには既に日本人に占拠されていた。

(30、这个你不要讲我来说。逃难回来以后，回来的时候，我李さん带着一家老小。这个房子，你们看，以前前面还有二层楼房，都撤掉了。回来的时候这个房子已经被日本人占了)

質問者：当時、なぜこの家を建てたのですか？

(当时为什么建这个房子呀?)

息子：なぜこの家を建てたのかって？ それは祖父が金持ちで、清朝末期に故郷の夷珍（地名）から……つまり祖父の一家……

(为什么建这个房子呀。就是我的李さん呀，应该说是个有财的人。他是清朝末年，从夷珍老家……就是我爸爸的爸爸的一家人……)

李さん：この話しはやめて。

（不要谈这个）

息子：（お父さんに向かって、彼らは）この事を聞いているから。祖父は夷珍から南京に来ました。彼は自分の力で商売を頑張って、何十年も経営しました。その後太平路に、現在はもう撤去したけど、現在の太平商場（マーケット）の跡地に大安旅館を建てました⁴。大安旅館を建てた後、残った材料でここに家を建てました。興奮しないで、お父さん⁵、あなたが言って。

（他们问这个。从夷珍到南京来了。他靠自己奋斗做生意，经营了几十年。然后在太平路，现在已经撤掉了，现在太平商场的遗址，建了一个大安旅馆。这个大安旅馆建好以后呢，多了一部分材料，就在这儿建了房子。李先生说，不要激动）

李さん：これは私から話す。私たちは1937年、抗日戦争の時、家族全員で南京を離れた。昔の言葉で言うと、跑反（逃亡）したということになるなあ。その時日本人が来て、既に南京まで侵入しているから、我々は隙を見て他の所に逃げた。何時戻ってきたかという、一年過ぎて、つまり37、38、39年初めに他所から戻ってきた。戻ってきた時には、ここは既に日本人に占領されていた。どんな情況かと言うと……

（这个我来讲。我们是1937年，在抗战的时候，我们全家就离开南京。就是过去来讲，就是跑反对吧。那时候日本人来，已经打倒南京了，我们就趁机就走，到外面去。什么时候回来，一年多以后。就是37，38，39年初，我们就从外面回来了。我们回来的时候，这个地方已经被日本人占了。占了一个什么情况呢）

息子：お父さん、声を少しおとして。

（爷爷，你声音低点）

4）現在の太平商場のある場所が、以前の大安旅館があった場所ということであろうか。

5）息子さんの、李さんに対する呼称が複数あるため、「父」「お父さん」に統一している。中国語では「爷爷」と述べている箇所が多数あるが、これは安奇さんの祖父に対する呼称ではなく、父である李さんに対し、質問者たちに合わせて「爷爷」と呼んでいるものである。

李さん：昔この家は、今残っているのは後ろの二間だけだけど、元々は表側に大きな建物があって、その後ろに十何軒かの平屋があった。帰ってきた時には、既に日本人に占領されていた。どんな状況かというと、私はその時12歳、37年は12歳だった。戻ってきた時には、この辺一帯は全部「松下富貴楼」で、表の壁の下のほうに「松下」、屋根に、つまり建物の屋上には「富貴楼」の三文字があった。

(过去我们这个房子呀，现在存在的呢，就是后面的两间。原来前面有一个楼房，有个楼房，后面还有十几间平房。我们回来以后，已经被日本人占了。占了是什么样的情况呢，我那个时候才12岁，37年12岁。来的时候的话，就是这个地方一条呀，全是松下富貴楼。在前面，墙下面有一个松下，富貴楼三个字在房子的顶上，楼房上面)

質問者：看板がですか？

(牌子是吧?)

李さん：日本人に占領されてからは、私の家は以前は太平路にあったけど、そこで旅館を経営していて、旅館の名前は大安旅社⁶⁾だった。これ(松下富貴楼)は、後に旅館にあったものを持ってきたものなのだ。旅館には四十何間かの部屋があって、四十何番まであって⁷⁾、四階建てだった。ここで使うものは全て旅館から持ってきたものだ。

私は松下に会ったことがある。その時、私は12歳くらいだった。私は父と、当時の政府、偽政府(汪精衛政府)に行って証明書をもらいに行った。日本が我々中国の建物を占領していて、使用するには登録が必要だった。ある日の午後のことだけど、たぶん私がまだ小学生だった頃、小学校もまだ卒業していない時、家の出入り口のところにいたら、父がきて一緒に溪流巷⁸⁾に行こうと誘った。私は四人兄弟中三番目だけど、上に兄が二人、弟が一人いた。なぜ私が同行しなければ

6) 旅社と旅館と二種類の呼び方が、中国語で話されているが、同一のものを指していると考えられる。

7) 部屋には番号が振られていたらしく、実際に聞き取りをした李さん親子が住んでいる部屋の扉にも、「14」という数字が刻まれている。

8) 現在の福安里を指すと考えられる。

ばいけないかと聞くと、万が一、日本人に虐められたり、何かあったら、すぐ家に戻って家族に何があったか話せるからと答えてくれた。それで、私もついて行ったわけだが、行った場所が私の家、現在のこの所、つまり立っているこの場所なのだ。

（那日本人占了以后的话呢，我们家，过去是在太平路呀，那边就开了一个旅馆，过去呀就叫大安旅社。这个东西就是后来的话，拉兵拖过来的，旅社里面的。我们旅社有四十几个房干，四十几个号头，一共是四层楼高。所有里面用的东西都是旅社里面的东西一起到这里来的。

我见过松下。那时候我大概是12岁左右。我跟我父亲，就是在当时的政府，伪政府，那时候有过伪政府，那个地方领了一个证明。就是说，日本占领我们中国的这个房子要登记，使用要登记。有一天，是一个下午，大概那时候我还在上小学，小学没毕业，上小学，我在家门口，我父亲就来，我是老三，我上面还有两个哥哥一个弟弟，他说老三你陪我到溪流巷去一次。为什么要我陪他呢，他说万一日本人对我们有什么欺负、还有什么事情呀，你回来可以给报个信，跟家人讲一讲我在什么地方出了什么事情。这样子就把我带来了，就到了我的家里来了，现在这个地方，就站的这个地方）

質問者：お爺さん、水を少し飲んでください。

（爷爷，你喝点儿水）

李さん：なぜ父が私を連れて行こうとしたかという、もう一つ問題がある。うちの旅館で、二人が日本人に殺された。日本が南京大虐殺をした時のことで、そこで日本人に槍（銃剣か）で刺されて死んだ。どこで刺されたかという、甕の中、前はうちの旅館のなかで水甕を使っていたから。日本人部隊はあっちこっち歩き回って調べていたのだけど、うちの店の門を開けたので、あの二人は怖くて甕の中に隠れて蓋をした。日本人が人を見たら殺し、奪い、殴っていたから。

（为什么我父亲要我陪他来，我还有一个问题。我家里头过去开了个旅馆，有两个人被日本人杀死，就是在日本进行南京大屠杀的时候，在那个地方，给日本人用枪插死。插死在什么地方，就是在缸里面，过去是

水缸，就在我们那个店里面。日本人部队呀，就走大陆上来呀，民间他就是查呀，把我们那个店门开来以后，那个两个人害怕，那时候见着人就杀、抢、打。那两个人呢，就躲到缸里头，弄个东西盖起来)

息子：この二人はどうして殺されることになったかという、当時家族全員が避難していて、二人を留守番で残しておいたのです。大安旅館は休業していたのだけれど、店が大きかったので、二人とも留守番だったのです。

(这两个人怎么回事呢，当时不是一家人全都逃难了吗，家里留两个人都是看门的。那个大安旅馆不是停业了吗，旅店那么大的地方两个人都是看门的)

質問者：男性ですか、女性ですか？

(是男的，还是女的?)

息子：二人とも男性です。

(两个都是男的)

質問者：年は？

(多大岁数?)

息子：その二人は当時いくつだったの？

(那两个人当时多大岁数?)

李さん：二人とも四十代。あの時、四十代は年寄りのほうだった。一人は朱さんで、もう一人は陳さん。陳さんは既に50歳近かった。

(两个人都四十几岁。那时候四十几岁就算是年纪大的人了。一个叫老朱，一个叫老陈，两个。老陈已经是五十岁左右)

質問者：お爺さんが直接見たのですか？

(是爷爷亲眼看到的吗?)

息子：いいえ、当時家族は皆避難していたので、帰ってきて知ったのです。あの二人は残って留守番していたのです。

(不是，当时他们一家人都跑掉了，回来才知道的。这两个人当时是留下看门的)

李さん：私の叔父は他の家族と一緒に避難していて不在で、難民所⁹⁾のある保護区に隠れていました。

（我的一个二叔呀，他没有走，就躲在难民所，有一个保护区）

息子：私から話します。祖父は兄弟が三人いるのですが、祖父が長男で、彼は南京から逃げたのです。祖父の弟、私の二番目のお爺さん、父の叔父は逃げていません。南京が陥落した後、難民所に隠れていました。

（我来跟你讲。我的爷爷他兄弟有三个，我的爷爷他老大，他跑掉了。我李さんの弟弟，就是二李さん呀，我爸爸的叔叔，当时他没有走掉，他没跑。南京沦陷以后他躲到难民所）

質問者：難民所は誰が開いたものですか？

（那难民所是什么人开的？）

息子：お父さん、難民所は誰が開いたものか聞いていますよ。

（爷爷，问你那个难民所是什么人开的）

李さん：外国人が開いたものだ。

（是外国人开的）

質問者：ドイツ人でしょうか？ ラーベという。

（是个德国人吧，应该叫拉贝）

李さん：今の南京大学のあるエリアが保護区だった¹⁰⁾。叔父が何日間か隠れていて戻ってきた際に、二人が甕の中で死んでいるのを発見した。ここを出ると太平路なのだけど、当時は皆が近所づきあいをしていて、向かい側の店の人も皆顔なじみだった。この辺で言うと、全部で十何人死んだけど、皆留守番をしている人だった。ちょっと話が長くなったけど、家で二人死んだほか、この旅館の隣の醬園（味噌、醤油などを作る工場）も人が死んでいる。昔の醬園には甕がたくさん置かれていて、あの家は醬園の名門で、すごく大きな工場だった。中には何十個もの甕があって、同じく留守番の人が、店主が避難した後、何人かの

9) 安全区内の難民収容所を指す。

10) ラーベが関与した安全区を指すと考えられる。

労働者が残ったけど、残った人の中で三人が死んだ。すぐ隣の家のことだよ。向かい側の漆工場と、銭湯、そして雑貨屋もそう。はっきり覚えているけど、全部で12人、12人死んだよ。この辺りだけで……
(就是现在的南京大学那个范围，那个就是保护区。二叔回来，几天以后他躲了回来，一看两个人死在缸里头。出了我们这个地方就是太平路，就是这段时间，过去我们都是老邻居呀，对面开的店什么的，我们都是熟人。一共我们这一代来讲的话，死的有十几个都是看房子的人。我谈的比较多一点，除了我家死的两个以外呢，我们这个旅馆旁边呀是个酱园，卖菜的酱园，过去酱园里头都是大缸，一缸一缸的来讲，他家是第一个酱园世家，是个大的一个厂房，里头有几十个缸，那边来讲，也是看门的人，老板就离开了，留下来几个老工人，留下来那个就死了三个。就是我们隔壁的。我们对面的，一个是漆器厂的，一个是林园澡堂子的，还有一个就是卖杂货的。那时候来讲的话，我清楚的话，一共是12个人，死了12个。就是我们这一段……)

息子：ゆっくり話して。

(慢慢讲)

李さん：私たちが(南京に)戻ってきた後、父がなぜ私をここに連れてきたかを話したね。こういうことだったんだ。日本人がまた来たらどうする、父を殺そうとしたらどうする、そうしたら私は家族に知らせることができるから。主にこういう考えだった。旅館についてから、以前は門があったけど、今はその門は既に壊されている。道路を広げる時に前の門を撤去した。私は父についてその門から入って、すぐに証明書をもらった。汪精衛政府から証明書をもらった。私たちが松下さんに会いたいと言ったら、出入り口に立っている人が私たちの証明書を二階の松下さんが住んでいるところに持って行った。それで、父は私を連れて二階に上がった。二階の前のほうには五間の部屋があって、五つとも道路沿いにあった。松下は一番端っこの部屋で座っていた。松下はここに住んでいた。父はその書類を松下に見せた。松下はその時、大体三十いくつで、奥さんがいて、大きい子供が一人いるだけ

ど、大体5、6歳くらい。

（我们跑反回来以后，我就讲到我父亲为什么带我到这里来。有这些情况，日本人又来的话，要杀他又怎么办呢，我可以抱个信，主要有这么一个顾虑。来了以后的话呢，我就跟我父亲呀，就前面有个门，那个门已经拆掉了，扩张马路的时候把它前面拆掉了。我们一进门，我们就拿了一个证明。那时候是汪精卫政府拿的一个证明。我们说，我们来想见一下松下先生。那时候，门口站的人就把我们这个证明拿到楼上，二楼，是松下先生住的地方。我们就上了楼，我父亲把我带着上楼。楼上前面呀，一共有五间房子，1、2、3、4、5，靠迎街的五间房子。松下呢，就坐在最边上的一间房子。松下就住在这个房子里头。我父亲就把那个单子给他看了，松下看了。松下那个时候大概来讲三十几岁，他有个爱人，还有一个大的小孩子，那个时候来讲他大概有五六岁）

質問者：男の子ですか、それとも女の子ですか？

（男孩还是女孩？）

李さん：女の子だよ。もう一人抱っこしている小さい子がいたけど、女の子か男の子かは分からない。どちらにしろ、小さい子は松下の奥さんが抱っこして出てきた。松下はそんなに無礼ではなく、礼儀正しいほうだった。父が座ってから、松下は時計を見て、他のことは言わず、父と話し合いを始めた。私はこのとき、部屋の外に出て見て回った。表通り側に五つの部屋があって、松下は（端っこの）ここに住んで、真ん中の二つは客間で、あっちの端には医務室と医者が住む部屋があって、この目ではっきりみたの。この五つの部屋は廊下が二つあって、左側には厨房が、松下がご飯を食べる厨房¹¹⁾があって、そこにはドアが閉まっている部屋が一つあったけど、見たら誰もいなかった。このような印象が残っている。見終わってから、松下と父がいくつかの事を話した後、私は何を話していたかよく聞こえなかったけど、一応会ったということだった。

11) 松下が文字通りの「厨房」で食事をしていたとは考えにくい、ここでは証言のままとする。

(是个女的。还有一个抱在手上的那个小的，到底是男孩还是女孩我们是搞不清了，反正有个小孩，是松下的夫人抱着出来的。松下来了以后，他不是那么很不客气的，还是很客气的。坐下来，我父亲跟他坐下来，他就看那个表以后，他也没谈别的，跟我父亲谈。我趁着这个时候，我就到门外看了一下。前面一共五个房间，松下住的这边，中间两间是会客室，那边来讲有个医务室，医生住的，靠紧边的，我看得很清楚。这五间房子，这边来讲的话有两个走廊，左边是个厨房，松下吃饭的厨房，那边来讲的话，有一个房子门关着，我看了一下子没有人，我有这么一个印象。看了以后来讲的话，他跟我父亲谈了几个事以后，我也没听清楚到底谈了什么问题，算是见过面了)

質問者：松下さんは中国語ができますか？ 彼はお父様とどうやってコミュニケーションを取ったんですか？

(松下回说中文吗？他跟您父亲怎么交流？)

息子：彼女が、松下は中国語ができるか聞いていますよ。

(她问松下会不会讲中文？)

李さん：簡単な中国語は。

(简单的)

質問者：では、彼はお父様とどうやってコミュニケーションを取るんですか？

(那他跟您父亲怎么交流？)

李さん：簡単な中国語は、たぶん松下は上海に住んだことがあって、租界にいたことがあって、少し中国語ができていたのだと思う。

(简单的，可能松下过去来讲的话在上海住过，租界上可能登过，对中国话来讲，懂得一点)

質問者：お爺さん、続けて話してください。

(爷爷，你再说)

李さん：表側の高い建物が、松下が住んでいた所。客室とか、下のほうは普通で、大したことなかった。奥さんも下のほうにいた。本当は、慰安婦

が住んでいた所はこの階とこの階¹²⁾。

（前面呀，楼高的就是松下住的地方。客厅什么的，底下来讲的话就是一般的，他的夫人也在前面的底下。真正来讲，慰安妇住的地方就是这一层、这一层）

質問者：松下さんは軍人だったんですか？ 松下さんは兵士だったんですか？

（松下是不是军人？松下是不是当兵的？）

李さん：彼が着ていたのは軍服ではなく、和服だった。軍服は着ていなかった。

（他穿的衣服不是军装，穿的是日本和服。没有穿军装）

質問者：軍人ではないですか？

（是不是军人？）

李さん：これはよく分からない。だけど、彼が着ていたのは和服。その時、私は小学生で、毎日前の太平巷の路地を通っていた。ここは、この前後は全部慰安婦がいたところだ。

（这一点我搞不清，但是他穿的是和服。那个时候我进小学，就是每天的话，我们走的太平巷，就走前面这条巷子。这个地方来讲，前后来讲的话，都是慰安妇的地方）

質問者：お爺さん、小学校は日本人が開いたものですか？

（爷爷，您的小学校是日本人开的？）

李さん：私が通っていたのは、中国人が開いたものだった。

（我们上的小学是中国人开的）

息子：あれは、汪精衛が開いたものだった。

（那是汪精卫开的）

李さん：汪精衛が開いたもの、「現在の」大行宮小学校。

（汪精卫政府开的，现在来说，大行宫小学）

質問者：前は何と言ったんですか？

（以前叫什么？）

12) 詳細不明。ただし現在残っている一階平屋部分も慰安婦が住まわされていた場所であり、一階部分が含まれることは確実である。

息子：（訂正して）以前が大行宮小学校と呼んでいた。

（以前叫大行宮小学）

質問者：今、まだこの小学校がありますか？

（现在这个小学还有吗？）

息子：今は撤去して、雲景博物館¹³⁾になっている。第九中学の向かい側にある。

（现在撤掉以后，现在叫云景博物馆，就在九中对过）

李さん：私たちはいつもこの前の路地を通った。ここに軍の車が止まっています、自動車はここに止まっていたの。

（因为我们经常走这个，路过前面一条路。这个地方，军车就停在旁边，小汽车就停在这个地方）

質問者：中の慰安婦は中国人ですか、日本人ですか？

（里面的慰安妇是中国人还是日本人？）

李さん：これについては、これから話します。

（这个我底下讲）

質問者：せかしてしまいました。

（有点急了）

李さん：日本との戦争は8年続いて、中国では抗日戦争と言う。8年占領されていた。私たちはいつもここを通っていた。抗日戦争に勝って、日本が投降して、その時も私たちはここを歩いた。この時のことについて話しましょう。日本が投降して、ある日のお昼のことだけれど、日本の天皇がお昼の12時に全国に向けて放送するということを言っていた。このことは既に公開されたことで、新聞でもラジオでも報道していた。太平路には安楽酒店¹⁴⁾があって、南京で一番大きかった。私たちはそこで（放送を）聞いていた。

13) 詳細不明

14) 安楽酒店は、南京にあった慰安所の一つ。李さんによれば、南京で最大で最初にできたとされる。現在アジア最大の慰安所建物群としては、利濟巷が言及されることが一般的であるが、李さんの記憶違いであるか、あるいは単体の建物としては最大であったのか、詳細は不明である。

（日本一战就是8年，我们中国叫抗战。沦陷了8年。我们都经常从这里走。所谓抗战胜利了，日本投降了，这个时候的话呢，我们也走这个地方。日本投降，在一天的中午，这我跟你们讲一下子。说日本天皇中午12点要向全国进行广播，这个已经是公开了，报纸来讲、广播来讲。我们就在那里听呀。太平路有一个安乐酒店，是南京最大的一个）

息子：平安の安、快樂の楽。今はもうなくなりました。

（平安的安，快乐的乐。现在已经撤掉了）

李さん：中国南京の一つ目の慰安所は、日本軍の将校が住んだところだった。

（就是在中国南京第一个慰安所，是日本军官，大军官住的地方）

息子：以前は祖父が大きい旅館を経営していて、安楽酒店は道の一つ挟む距離だった。道の東側は大安旅館で、道を挟んで向かい側が安楽酒店だった。

（以前呀，我们家爷爷开了个大旅馆，跟安乐酒店是一街之隔。街的东边是大安旅馆，街的对过就是安乐酒店）

質問者：その道路の名前は何か？

（那个街叫什么名字？）

息子：太平路、今は太平南路と呼ぶけど、以前は太平路と呼んでいました。

（叫太平路，现在叫太平南路，以前叫太平路）

李さん：ラジオで12時に重要なニュースがあると報道したから、私たちは聞きに行った。その時、私もう子どもじゃなかった。12時に日本の天皇がラジオで放送したら、日本人は跪いて泣いていた。これが日本の降伏宣言だった。

（这个广播上面讲，12点有重要的新闻，我们中午就跑过去了。那个时候我已经不小了。12点，那时候日本天皇一广播，日本人来讲一起跪下来哭了。那个就是日本已经宣布投降）

質問者：南京に居た日本人がニュースを聞いて泣いたのですか？

（就是在南京的日本人听到消息就哭了？）

李さん：そう、彼らが泣くと私たちは嬉しいんだよ。日本人が投降したから。

ラジオで放送されてから、日本の店はほぼ全部閉まった。それは、中

国人に危害を加えられるのが怖くて、自己防衛意識からそうしたんだよ。

(对，他们一哭我们就高兴呀，我说日本人已经投降了。广播一播之后呀，日本商店基本一起都关了。为什么呢，他们怕中国人来伤害他们，他自我保护。)

質問者：慰安所も閉まったのですか？ つまり、慰安婦のところも閉まったのですか？

(慰安所也关了吗？就是慰安妇那天也关了吗？)

李さん：これから話すね。当時私たちは外にいて、中はどういう状況か分からなかった。当時、幾つかの鉄の門がしっかり閉まっていて、前が塞がっていて、慰安婦は中に軟禁されていて、外に出られない。ある日の通学途中、私は多くの慰安婦が鉄の門のところでうつ伏せになっていて、一人は中で泣きながら何かを訴えているのを見た。

(我们马上谈。我们谈这个慰安妇呀，过去我们在外边不了解里面什么一个情况，不了解。这个时候那几个铁门一起把她关起来，前面堵着，慰安妇不准出去，关在里面。有一天我上学路过，看到好多慰安妇就趴在铁门这边，有一个在里面哭，就哭诉)

質問者：天皇が宣言した日ですか？

(就是天皇宣言那天？)

李さん：外には多くの人が群がっていて、彼らは私たちが勝って、日本が投降したから、どういうことか見てみようと言っていた。以前はここに来ることができなかつたし、外さえもだめだった。一番印象に残っているのは、なぜ人がいっぱい群がっているか聞いてみたら、ある普通の和服みたいな服装をした女の人が、自分は台湾人だと言ったことだ。

(外面围着不少人，人家说，现在胜利了，日本投降了我们看看到底是什么一回事。过去根本就不准到这里来，连外面都不行的。我印象最大的一个，我看为什么这么多人围着这个地方就问呀。有一个女的就穿着一个就是一个普通的象日本服装一样的，她说我是台湾人)

質問者：あの泣いていた人ですか？ 泣いていた人がそう言ったんですか？

（是哭的那个人吗？是哭的那个人告诉你的吗？）

李さん：そう、私も中国人だけど、慰安婦の中で中国人が多かった。韓国、朝鮮の、それに台湾の、他のはよく分からない。

（对，那时候说我也是中国人。慰安妇来讲的话我们中国人多一点。韩国的、朝鲜的、还有台湾的，其余的来讲的话我也搞不清）

質問者：日本人はいなかったですか？

（有没有日本人？）

李さん：いろんな人がいた。慰安婦はどれぐらいいたかというのと、日本軍が撤退した後、日本国籍の人も全部送り出し、ここは空いてきた。それでうちはオーナーだったので、帰ってきた。その時、中の多くの物は残して行ったので、慰安婦が住んでいたここは、前のほうに三十いくつかのベッドがあったことから、たぶん三十何人ではないかと思う。ここに住んでいた慰安婦の話です。

（有好几种人。慰安妇大概有多少，我们这个地方后来，日本撤退了，日本的侨民呀一起寄送，这个地方就空下来了。我们就，我家里是老板我们就回来了。这个时候，里面的很多东西呀，留下来，我们就看出来慰安妇她住的这个位置，在前面一排大概有三十几个位子，所以我估计有三十多个。就说我们这个地方的慰安妇）

質問者：お爺さん、位子は部屋数ですか？ それともベッド数ですか？ ベッド数ですよ。三十何人が一つの部屋にいたのですか？

（爷爷，什么叫位子？是房间还是床位？应该是床铺吧。三十几个在一个房间吗？）

李さん：ここは部隊と一緒に住む所なので、慰安婦は一人で部屋一つではなかった。

（这个地方来讲的话，它是跟部队私人住的地方。她这慰安妇不是每个人住一间房子）

質問者：では、何人で部屋一つだったんですか？

（那几个人一个房间？）

李さん：具体的には……

(具体 ...)

息子：そんなに大きな部屋もないですし。

(也没有这么大的房间)

李さん：以前は前のほうに一人用の部屋が多かった。

(过去一个一个多，前面房子多)

李さん：以前、南京市が統計を取ったことがあるけど、慰安所は南京市内に七、八十箇所あった。この白下区だけでも、二、三十箇所あった。ここはすごく重要なところで、前の利済巷には、まだ撤去していない保留しているものがある。日本が撤退した後、私たちはここをきれいに掃除して、全ての家具を前のほうに移した。そして、部屋は一間毎に全部賃貸に出した。うちには家が別にあって、ここには住んでいなく、あっちに住んでいた。多くの家具はここに集中的に置いておいた。この何年間、家族は農村へ行って暮していたから、多くのいい家具は親戚や友人が持っていった。いいものは皆持って行って、ここに残っているのは割とあまりよくないものばかり。いいものは皆持っていかれてしまった。その当時は、たくさんあるから、旅館のものなんて大事にしなかった。うちの旅館は、日本人に占領されていて、太平旅館と言った。あちらに旅館があった。他に紹介してほしいものはある？

(以前南京市已经做过统计，就是慰安所呀，全南京市有七八十个。我们这个区就是白下区来讲的话，就是有二三十。我们这是个很重大的一个地方，前面利济巷就是有一个现在还没有撤掉还保留的。日本撤退走了以后，我们这个地方打扫清扫，就把所有的家具一起搬到前面去。我们这个地方就一户一户的整个就出租给人住。我们家有房子，我们不住在这里，住在那边。很多的家具呀集中的摆在这个地方。这些年来，我们也下乡到过农村，很多的好的家具呀，都是给我们亲戚朋友拿走了，一看好的，拿的拿。这些东西呀，都是比较差的，留下来。好的东西呀，一起给人家换走了。那时候不希有，多了，对不对呀。一个旅馆的东西。我们那个旅馆呢，给日本人占了，叫做太平旅馆。那边是个旅

館。你看还需要介绍什么？)

質問者：日本が降伏した後、慰安婦はどこに行ったんですか？

(日本投降之后慰安妇去哪里了？)

李さん：これは答えられないな、分からない。日本人が行ってから、バラバラになったかも。中にいた台湾人はどうやって行って、日本人はどうやって行って、中国人はどうやって行ったのか、全然分からない。

(这个我无可奉告，搞不清。日本人走了，也许已经散掉了。到底里面台湾人怎么走的，日本人怎么走的，中国人怎么走的，这一点我们不知道)

質問者：どっちみち、皆どこか行ってしまって、皆バラバラになったんですね？

(反正他们都走了，大家都散了是不是？)

李さん：どこに行ったかは分からないなあ。

(去处我就不清楚)

質問者：ある日、皆いなくなったんですか？

(是那一天之内全都走了吗？)

李さん：そうだなあ。日本人が行ってから、皆どこかにいっちゃった。中国人慰安婦は自分の家に帰ったのだろうけど、台湾の慰安婦がどこに行ったかは分からないなあ。

(那个时候来讲的话，就是这样了。日本人一走，一起散，过去就是走的了。你看中国的慰安妇来讲，她回到自己的家去了。那么，台湾的到底怎么走的，我也搞不清了)

質問者：彼女たちは一日の内にいなくなったのですか、それとも次々順番にいなくなったのですか？

(她们是一天之内走了，还是陆陆续续走的？)

李さん：これは私も分からない。

(这个我也搞不清了)

質問者：その後、見に来ていないですか？

(你也没回来看？)

李さん：これは答えられない。よく分からないことは、話せないから。

(这一点我不清楚，我不能说。不清楚的不了解的不能够说)

質問者：いつここを掃除したんですか？

(什么时候打扫这里的?)

息子：つまり、日本人が投降した後、私たちはいつここに来たんですか？

(就是说日本人投降以后我们什么时候到这里来的?)

李さん：一か月あまり経ってから。

(一个多月以后)

李さん：なぜなら、日本が投降した後、その当時の重慶政府が来て接收しようとして、前の門を封鎖した。それは、松下富貴樓の財産権が誰のものか分からないからだ。ある日、ここを通った時に、国民党の大きなトラックがここに止まって、待機していた。つまり、日本人はもう逃げたから、ここを差し押さえることになっていた。焦った我々は家族を呼んできて、この家と物は我々の物だと言って、財産権を見せたら国民党は物を置いて去って行った。国民党が言うには、ここの物は日本人の物だから、まとめる必要があるとの事だった。

(为什么呢，日本投降以后的话呢，那时候来讲的话，重庆的政府回来接收，他就把我们这个前面的门一起封起来。因为日本来讲，松下富貴樓呀，搞不清到底产权是什么人的。有一次，我们走这个一看呀，国民党弄了一个大卡车来，就停在这个地方准备，就是说日本人已经走了我要接收起来。我们一看，我们急了，我们赶紧叫家的人一起来了，我说这个房子是我的，这个东西是我家的，我把房产证给他一看，他车子开走了，东西留下来。他说这都是日本人的东西我们需要集中起来)

息子：お父さん、この大安旅館はいつ建てたの？

(爷爷，这个大安旅馆是哪一年建的?)

李さん：1931年だ。

(是1931年)

息子：31年ではないはず、この前でしよう。きっと31年の前だ。この家は主に大安旅館を建てた後の残りの材料で建てたものだ。

（什么31年，在这个之前呀，肯定是在这个之前，31年之前。这个房子，盖房子主要是大安旅馆剩下来的材料）

李さん：30年頃、1930年。たぶん私が三、四歳の時に建てた。

（是30年左右。1930年。我大概三、四岁的时候盖的）

質問者：お爺さん、毎日学校通う時に、慰安婦たちはどんな様子だったか覚えていますか？

（爷爷，您每天去上学，您在路上，那些慰安妇她们是什么样子？你还记不记得？）

息子：見えない。

（看不到）

質問者：見えない、みんな中にいるからですか？

（看不到，都在里面呀？）

質問者：慰安婦たちを見たのは一回だけ、つまり敗戦の日だけですか？

（你只看到那些慰安妇，只看过一次呀，就是战败的那天？）

息子：そう、父さんに聞いているよ。慰安婦はよく見かけたんじゃないかった？

（对，他问你，慰安妇你是不是经常看见吗？）

李さん：よく見かけるよ。

（经常看见）

息子：毎日の？

（天天看见吗？）

李さん：そうでもない。

（不一定）

質問者：見かけた時はどんな様子でしたか。何を着ていて、何をしていましたか？

（看到是什么样子，穿的是什么呀？干的是什么呀？）

李さん：着ている服はね、日本の簡単な和服もあれば、中国の着物、気軽な服装もあった。

（我跟你讲呀，穿的衣服呀，有的日本的简单的和服，也有中国的衣服，

很随便的)

質問者：入口のところであらうろろしている様子でした？

(在门口走来走去呀，那种?)

李さん：外では見えない。

(外面看不出来)

質問者：では、どうやって見たのですか？

(那你是怎么看到的?)

李さん：彼女たちが中で動き回る時、時々外で歩いていた。門の外ではなく。

(她在里面行动的时候，有时候她在外边走，她不是外面走)

息子：前、あなたたちはここに来た事あるでしょう。この中には鉄門があって、58年に撤去したけど。だからお爺さんが言う「外」は鉄門の中のことだと思います。つまりこの中。

(以前你们来过。这里面有个铁门，58年那时侯，铁门就拆掉了。所以我李さん估计呀，外面就是在铁门的里面，就是现在这个里面)

質問者：鉄門の中でうろろしていたのを見たんですね。

(看到铁门的里面走来走去?)

息子：はい。

(对)

李さん：慰安婦が門の外で歩きまわっているのは見たことがない。

(我没有看到慰安妇在外面跑)

質問者：お爺さん、彼女たちは何をしていたのですか？ 学校に通う時に慰安婦を見ましたね。見た時、彼女たちは何をしていたのですか？

(爷爷，你看到他们在干什么呀？你上学不是看到慰安妇吗，那你看到他们的时候，他们在干什么呀?)

李さん：何をしていたかって？ よく分からない。鉄門の中でうろろしているのは見たが、門の外では見たことがない。分からない。その頃、街には和服を着た日本人がたくさんいた。太平路が一番多かった。本当の和服を着た日本人女性はあまり見かけなくて、みんな気軽な、簡単な和服だった。街で見かけたことがあるけど、礼服だろうか、何かの

祝日に着ていた。他は普通のものが多かった。

（干什么，我搞不清。就是在外边走，看到过。不是在外面看到的，看不出来。那时候，在外面穿和服的日本女得多得很呀。太平路最多。真正的日本人的那个人来讲的话，还是看得不多，都是一般简单的很随意的。我们这是在街上看到的，她那个好像是个礼服，什么节日的时候来穿。一般来说都很平淡的）

質問者：慰安婦たちが話しをしているのは見た事がありますか？

（你有没有看到那些慰安妇她们在讲话？）

李さん：声は聞こえないけど、たぶん。

（听不到声音，估计）

李さん：彼女たちの事はよく分からない。

（她们之间的事我们不清楚知到）

質問者：では、この前を通った時に二人の慰安婦が話しをしているのを見かけましたか？

（那你有没有说，从外面经过，看到里面两个慰安妇在讲话？）

質問者：遠すぎましたか？

（太远了，是不是？）

李さん：そこまでは分からない。ここを通る時に、ただ鉄門からチラッと覗いた後、通った。彼女たちが何をしゃべったかは聞こえなかった。

（没有注意到这个问题。我们有时候走这个过来，看看前面后，走的。他们讲什么话，我们也听不清楚）

李さん：大きな鉄門を挟んで、ここまで来て話しても聞こえない。

（大铁门在前面，她走这边过来，这边讲话我们也听不了）

質問者：四面全部が鉄門ですか、それとも一面だけが鉄門ですか？ 他には壁で、鉄門は一面だけなら、他は何でしたか？

（是四面都是铁门呢，还是只有一面是铁门？其他都是墙呀，就是铁门只有一面，其他三面是什么？）

李さん：前から後ろまで一直線で通っている。

（它是个通掉的，前面有一条通过来，一直到后面）

質問者：では後ろはなんですか？ 家？

(那后面是什么，房子？)

李さん：部屋だよ。以前は前から通っていて、ここには窓がなかった。これがドアで、ずっとここまできて、前は両方に通っていた。後になって我々が修復した。つまりこの大きな門から入って、何処にも行けて、通じていた。

(就是房间呀。过去它由前面过来呀，就是这个没有窗子。这就是个门，一直过来，它前面一直由两边走。后来我们这个恢复了。就是走这个大门进来，进来每个地方可以走，通的)

質問者：つまり、この壁がなかったんですね。この壁もなかったんですか。

(就是没有这面墙？是不是这面墙都没有呀？)

李さん：ある、ある。

(有、有。)

質問者：つまり、ここにドアがあって、どの部屋にも行けたのですね。

(就是这儿有个门，都可以走，每个房间都可以通？)

息子：どういふことかという、この辺、両側の鉄門は、以前はこの位置にあった。逆に言えば、もしドアがここなら、この窓はここ、全部が通じていた。この中には、この壁がなく、庭にも壁がなかった。この壁は後で築いたもの、つまりこの庭の中は全部ぶっ通しになっていた。(它是怎么办呢。以前这一块，这两边的铁门，以前这个门在这个位置。反过来讲，如果门在这，这个窗子在这，这个都是通的。这个里面这个墙也没有，院子里墙也没有。这个墙是后来砌的，就是里面的这个院子里面，全是通的，全是贯通的)

質問者：慰安婦の逃亡を防ぐために、見張り役か門番はいましたか？

(为了不让那些慰安妇跑出来，有没有专门看管的，有没有看守门卫？)

息子：管理する人、守衛がいたかどうか聞いているよ。

(就是说，有没有管理人员，有没有门卫)

李さん：日本の場合は、その時は車が外に止まっているから、中の様子は我々に知られてはいけなかった。許されなかったから。当時、人々がここ

を通る時は、ここの壁のほうを歩かずに、反対側のあちらのほうを歩いていた。

（日本来讲，过去都是小车子来停在外面，里头到底怎么一个情况，那时候我们根本就不应该知道的。他根本就不允许你。过去人走这边走，都不靠墙走，不靠这边，都往那边走）

質問者：なぜこっちの壁のほうを歩かないのですか？

（为什么不靠这边走？）

李さん：どういうこと？

（讲什么？）

質問者：つまり、ここを通るとき、壁の反対側を歩かないといけないよね。うん、どう聞けばいいですか？

（就是爷爷，你不是走的时候，不是要在街的另一边走吗？就是，怎么讲呀？）

息子：お父さんはさっき、学校に通う時、毎日路地のほうを歩いたと言ったよね、なぜここを通らずに、反対側の路地を通ったの？

（你现在不是说天天上学，天天由巷走吗不是，你刚才说了走路都靠巷子那边走，不敢靠这边走？）

李さん：戻る時はあちら（路地側）を通ったよ。

（那边回来吗，走这边走）

質問者：では、なぜこちら（壁）側を通らなかったんですか？

（那为什么不走这边？）

李さん：必ずしもこの壁側を通る必要はなかった。その頃は道が広くて、一本だったから。

（不一定非要靠着这个墙走，那时候路宽，是一条路）

息子：もしここの鉄門に近づいたら、近寄らないように取り締まる人はいたの？

（假如说你靠近铁门，有没有人来管着你们。就说你不允许靠近这边走？）

李さん：そんなことはなかったような気がする。その頃は人が少なく、ここを

通るとき、皆こちら側に近寄りたがらなかった。

(这个，我没有这个感觉。反正那时候人少，走这个地方，人家都不愿意靠这边走)

質問者：避けたのですね。

(应该是躲着)

李さん：現在は人が多いが、昔は人が少なかった、すごく少なかった。その頃、南京の人口はとても少なかった。

(过去人少，人稀少，不像现在人口多。那时候南京人口很少很少)

質問者：日本人がここに来て、ここを占領しましたよね。日本人が家を建てたとか、壁を建てたとか、そんなことはなかったのですか？

(日本人来了之后，日本人来到这儿吧，不是把这一块儿占领了吗，有没有自己说建房子呀、建一些墙呀，有没有?)

息子：ないない。日本人が占領した後、家を建てたり壁を建てたりしたかと聞いているよ。ないみたい。

(没有没有。他们说，这个房子被日本人占了之后，有没有搞个房子，日本人搞个墙？好像没有)

質問者：なぜこの家を建てたのですか？ 何かの目的で？ つまり、どんな目的でこの家を建てたのですか？

(为什么建这个房子呀，什么目的？就是什么目的建了这个房子?)

息子：その頃は今と同じで、残った材料で家を建てた。建てた後は、基本的には人に貸した。賃貸の部屋として。

(那个时候不是跟现在一样吗，剩的材料建的房子。然后建完这个房子，这个房子基本上相当于给别人住，出租房)

質問者：ほかに特別な目的はなかったですか？

(也没有特别目的?)

息子：ないない。父さんとお爺さんは太平巷の古い家に住んでいた。太平巷の家はこの家ほどよくないけど、彼らは住みなれているから。

(没有没有。以前象我父亲，我李さん还住太平巷这个老房子。太平巷老房子质量还不如这个房子，他们都习惯了)

質問者：この家は、以前はどんな色だったのですか？ 外は今のままでしたか？

（这个房子以前是什么颜色的呀？外面，还是这个样子呀？）

息子：昔の外壁は青い煉瓦で建てたものだった。その後、風化したので、外側にセメントを塗った。昔はセメントはなかったので、青い煉瓦の壁だった。

（以前这个外面的外墙是青砖墙。青砖墙，后来墙风化了，所以外面抹的水泥。以前没有水泥，以前的墙是青砖墙）

質問者：青い煉瓦ですか？

（青色的砖头吧？）

息子：そう、青い煉瓦。

（对，青砖）

李さん：昔は青煉瓦の壁だった。

（过去是青砖墙）

質問者：外の鉄柵は前からありましたか？

（外面的铁柵子以前就有吗？）

息子：前からあった。

（以前就有）

質問者：この二つの位置を変えただけですな。

（就是就这两个移了一下位置？）

息子：はい。

（对）

質問者：では、なぜその頃は青色の鉄柵を使ったのですか？

（那为什么那时候，用蓝的铁柵栏）

息子：安全の面からだと思います。家を建てた時からありました。

（我想还是考虑安全吧，建房子的时候就有）

質問者：家を建てた時から外の鉄門はありましたか？

（建房子的时候，外面的大铁门就有吗？）

息子：はい。

(对)

質問者：日本人が付けたのではないですね？

(并不是日本人?)

息子：いいえ。

(不是不是)

質問者：松下富貴楼の屋上に字がありましたよね。松下富貴楼の看板は残っていますか。「松下富貴楼」と書いたもの、ありましたよね？

(就是那个松下富貴楼上面不是有那个字吗，松下富貴楼有那个牌子吗？以前，楼是不是有一个像牌子一样的，上面写松下富貴楼的。以前是不是有的?)

李さん：以前？

(以前呀?)

質問者：松下さんが住んでいたときの。

(就是松下住的时候)

李さん：あったよ、松下富貴楼、あった。

(有呀，松下富貴楼，有的)

質問者：吊り上げてあったんですか？

(就是铁吊上去的?)

李さん：松下富貴楼は前にあって、大きな橋の上に。

(松下富貴楼在前面，大桥上面)

質問者：お爺さん、こんな感じでしょう？ 全部鉄の。

(爷爷，是不是这样子的，就是全是铁。)

李さん：そうそう、松下富貴楼、松下富貴楼。

(对对，松下富貴楼。松下富貴楼)

息子：たぶん字は縦書きだったと思います。

(我记得好像字是竖着排的)

質問者：大きさはどれくらいですか？

(大概有多大?)

息子：これくらいかな。私が子供の時にはまだありました。

（好像有这么大。我们小时候还有）

質問者：では、いつ撤去したのですか？

（那，什么时候拆的？）

息子：91年に撤去しました。しかし、字は立ち退きをする前からなかったです。私が子供の頃、50年代までありましたけど。

（91年拆的，但这字老早就，拆迁以前字就没有。我们小时候50年代还有）

李さん：93年になって、この前側から撤去した。

（在93年的时候，在前面才把它拆掉）

息子：字はずっと前からなかった。

（字老早就没有了）

質問者：江沢民が当時、ここを遺跡として残そうと、取り壊すのを止めさせましたよね。しかし、その後、不動産投資家がきて開発もしたんですよね。この間に何がありましたか？

（江泽民是不是当时提出来，这块地要做为遗址要留下来，不要拆。但后来，又有开发商来开发。这一段时间是怎么回事？）

息子：江沢民が関与したかどうかは分かりません。多分2006年頃、当時立ち退きをしようとしていた時、江沢民が何か言ったかどうかは分かりません。

（江泽民说没说话，我不知道。大概06年吧，当时要拆迁的时候，06、05年要拆迁的时候，江泽民说没说我不知道）

質問者：当時、多くの人が反対しましたよね。その場面は……

（当时人反对呀，那个场面……）

息子：当時の所謂反対は、我々地主はもちろん反対ですよ。

（当时所谓反对吗，我们这个地主，我们肯定反对）

質問者：デモしましたか？

（去游行？）

息子：いいえ。周囲は全部取り壊した。こちら辺は私たちの立場から言う
と、せっかくお爺さんの世代が残してくれた財産だから、父は自分の

代でなくしたくなかった。今後どうなるかは分かりませんが。その後、南京大学や支援者、それに大虐殺記念館の人たちが参入して、このことを皆に呼びかけて、省、そして国に連名して嘆願書を出したから、この建物の保存が可能になりました。そうでなかったら、とっくに取り壊されたはずですよ。周囲は不動産投資家によって、全部取り壊されましたよ。投資家が資金を何千万も投入したのは、ここの土地を入手するためだけでした。

(没有。周围全部拆掉了。我们这一块儿考虑吗，一个是从我们这个故人感情来讲，我们爷爷辈留下来的祖产，我父亲也不想在他这一代，把祖产丢掉了。至于以后怎么说，但是后来，这里面通过南京大学、助成商、还有大屠杀纪念馆这些人介入了，把这个情况众呼，向省里面，包括中央，联名写信，这个样子，把这个保下来了。否则，老早就撤掉了。但是，不像开发商来讲，他搞这么大，旁边全部撤掉了，他就是花几千万，目的就是这块地拿下来)

質問者：この人たちの参入によってうまくいったのですか？

(就是因为这些人的介入?)

息子：はい。ご存知のように、我々民間人の力は限度があります。だけど、このように呼びかけて解決しました。この建物はそれ自体歴史価値があります。これは、私たちの考えで、祖先も取り壊すことを望んでいないと思います。その後、地質研究者も一部介入して、省からも、市からも国からも注目されることになりました。

(对，你知道我们只是普通老百姓，我们的力量很有限。但是怎么办呢，我们就这样呼吁了。它本身就有历史价值的。这个我们讲的是，另外，从故人感情来讲，也不希望撤掉。这个样子，有一部分，搞的就是搞这个地质研究的也介入了，这个样子。省里面、市里面、包括中央也反映了)

質問者：それで許可が下りたんですね。

(然后就批下来)

息子：そうです。ここの建物について、その後、国から指示があったそうで

す。当時、南京市宣伝部の張処長がここに来て、詳しいことは言えないが、ここの建物は壊さないことになったと言ってくれました。南京市の書記も来ましたが、日曜日で、すごく暑い日でした。張と言う人は宣伝部の処長でした。

（対、这里后来据说是中央给了指示了。当时呢，南京市宣传部有一个处长姓张，张处长，到这儿来之后讲了。他说呢，我不好跟你讲太清楚，但你这个房子肯定是不拆了。当时南京市委书记来了，是星期天吗，天气很热的，一个姓张的是市委宣传部的一个处长）

質問者：では、今はこの建物は、取り壊されることはないんですね。

（那么现在这个房子不会拆了）

息子：今は、現在の中日関係から見ると、絶対取り壊されません。しかし、今後どうなるかは分かりません。歴史的価値のある遺跡として残したとしても、その後はどうなるのでしょうか。政府からの保証があるわけでもなく。この建物はかなり年数が経っていて、補修するにもかなりの金額が必要になる。もし我々が補修した後、万が一、また取り壊すと言われたら、補修にかかった費用は無駄になる。そうじゃないですか？

（现在，我估计按目前的中日关系，肯定是不拆了。但是，这个房子的去留也不清楚了。你说，假如作为一个有历史保留价值遗址，下面怎么弄呢，还是你有政府推广，还是怎么弄？你看这个房子这么多年了，假如要维修，肯定投入也不少。如果我们修好以后，万一又来个又要拆了，我全部打水瓢了吗，是不是？）

質問者：ここは元慰安婦の場所だったじゃないですか。ここに研究で訪れる日本人はどれくらいで、中国人はどれくらいですか。日本人と中国人とどちらが多いですか？

（就是这里不是慰安妇的地方吗？来这里实地考察研究的有多少日本人，有多少中国人？是日本人多一点，中国人多一点？）

息子：日本人の方が多いと思う。中国人はこの歴史について、特に若者は無関心なのだ。毎年の八一五、つまり光復日、日本投降の日と南京が

陥落した13日に。最近はあまり来る人がいない。二、三年前までは多かったけど、この二、三年はあまりいないね。

(应该讲是日本人多一点，因为中国人对这段历史，尤其是年青人根本不关心。每一年八一五，就是光复日，日本投降。另外还有的时候，南京沦陷13日。这两年没人来了。早两年来的人多。这两年没有人来了)

質問者：今日お伺いした話を日本語に訳して、他の日本人に伝えたいんですけど、大丈夫ですか？

(今天我们聊的这些东西，用日语之后翻出来，想要告诉其他的日本人，这样有没有关系?)

息子：いいですよ。

(没关系)

質問者：お名前を出しても構いませんか？

(把您的名字说出来没关系吗?)

息子：名前は出来れば出さないでほしいです。この場所は出しても構いません。この年齢の我々は、国が一番混乱していた文革の時代も経験しました。今後の事は見当がつかないから、面倒な事に引き込まれたくないです。そうじゃないですか？

(最好不要说。你说，最好不要说。反正你可以说这个地点。按我们这个年龄是应该讲，我们国家，所谓最乱的时候，文革我们都经历过的，但是往后好多事情不好说。我何必自己找麻烦呢，对不对?)

質問者：お爺さんの名前も駄目ですか？

(爷爷的名字也不能说吗?)

息子：お父さんの名前は、名字までは大丈夫ですけど、名前は出さないでください。

(爷爷的名字，你讲姓是行，具体名字不要讲)

質問者：「南京福安里」、このように書けばいいですか？

(就是“南京福安里”，这样写出来行吗?)

息子：いいですよ。

(行)

李さん：あと、自分の感想を言ってみよう。私が子供の頃、日本が南京を侵略したでしょう。太平路に日本の商店がたくさんあった。日本の商店は太平路にあった。日本人が建てた商店はこの太平路一帯にあった。私の学校が大行宮にあったから、主にこの一帯を通った。私が感じた事を話そう。日本人の子供は、冬でも短パンで商店の前で遊んでいた。中国人はみんな綿入りのズボンを穿いていたのに。これが一つ。もう一つは、今でも日本民族に敬服するところがある。大行宮に日本人の小学校があった。日本人が住んでいた時の中心的な小学校で、その時、学生が学校に通う時、背がこれくらいの小学生が道路の交差点に差し掛かった時、二、三人の小学生が東側に立って、東に向けて礼儀正しくお辞儀をしていた。幼い私に深い印象を残してくれた。監視する人も教える人もいないのに。日本人は、天皇に忠義を尽くす。このことから、日本民族は忠義心があると思った。日本人はなぜ子供の時からこのようなことができたんだろうと思った。

（另外我谈一点我自己的看法。在我小的时候，日本不是占了南京吗？太平路呀，这一带日本的商店相当多，日本的商店就是在太平路。日本人盖的商店呀，就是在太平路这一带。我们从小读书就在大行宫主要通过这一带。我有一种感受，就是介绍给你们。日本人小孩子呀，冬天穿这个裤头就在商店门口跑动，中国人都要穿棉裤，这是一个给我的感受。第二个，日本的这个民族到现在我还有一个佩服的地方。大行宫有一个日本的小学，日本人住宿的时候，中心小学，日本来讲的话，那时候小学生上学走呀走，都这么高的小学生，一走走到大马路的十字路口，在东边两三个小孩站在那个地方，规规矩矩地向着东方乖乖地鞠躬。从小给我的印象很大。也没有人看着他，也没有人教他。你日本人呀，主要是日本人向日本天皇表示忠义。这一点我们认为，日本这个民族在这个方面他有尽忠性。为什么他从小就有这种，这一点，我从小对日本来讲）

李さん：最後に、私は中国人、私も愛国者だ。もう八十歳を過ぎている。中国と日本、あなたたちは日本人だけ。我々中国には「前事を忘れざる

は、後事の師となり」(前事不忘、后事之师)という諺がある。過去の歴史は忘れてはいけない。しかし、この点については、もう過去のこと、平和を望まないといけない、平和を。今後、中国と日本は協力して発展していくべきである。争うと共倒れになる。中国が損をして日本の利益になることはない、そうだろう？ 戦争はもう終わって、我々はもう二度と戦争が起きてほしくない。これは我々が心から願っている事である。日本人でも、中国人でも、戦争は嫌い。南京大虐殺は三十万人、そうだろう。これについては、忘れてはいけない。「前事を忘れざるは、後事の師となり」とはよく言ったもので、歴史を忘れないで、将来を展望し、我々が協力すれば中日は仲良く付き合える。これこそ我々の望んでいることじゃない？ 他に何か？

(最后呀，我是一个中国人我也是个爱国者，我八十多岁。我们中国跟日本，你们都是日本人来讲，我们中国前事不忘后事之师，是不是？过去这一段历史我们不能忘记，但是这点来讲，已经是过去了，我们还是要热爱和平，热爱和平。今后我们中国跟日本应该很好的携手来共同把我们国家，能够来发展一些。对峙俩败俱伤，我们中国受损，你们日本也占不了便宜，对不对？战争已经过去了，我们不要再发生战争了，这是我们的心愿。日本也好，我们中国人也好，我们都不愿意战争。南京大屠杀三十万人，对不对？这一点我们不能忘了。为什么呢，前事不忘、后事之师，不忘历史，我们展望未来，我们携手来，中日还是能够和平的相处。这是我们的心愿，对不对？你们还有什么？)

質問者：今日はお邪魔しました。すみません。

(今天打扰爷爷了。不好意思)

李さん：いいえ。

(没关系)